

<平成 26 年度春季大会ミニシンポジウム企画案>

## 微量元素・同位体を指標とした沿岸域の物質動態研究の現状と展望

日時・場所：平成 26 年 3 月 31 日（月） 9：00～12：00・ 第〇会場

企画責任者：石川智士（地球研）・林崎健一（北里大海洋）・吉川 尚（東海大海洋）・  
富永 修（福井県大生物資源）・中野孝教（地球研）

- |             |                                     |                                |
|-------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| 9:00～ 9:10  | 開会の挨拶                               | 石川智士(地球研)<br>座長 吉川 尚(東海大海洋)    |
| 9:10～ 9:35  | 1. タイ・ラヨーン沿岸における定置網漁獲物の栄養段階         | 今 孝悦(筑波大下田)                    |
| 9:35～10:00  | 2. タイ南部・バンドン湾の貝類養殖域における食物網構造        | 岡本侑樹(地球研)                      |
| 10:00～10:25 | 3. ラドンとトロン同位体を利用した沿岸生態系への地下水インパクト評価 | 谷口真人(地球研)                      |
| 10:25～10:35 | 休憩                                  | 座長 石川智士(地球研)                   |
| 10:35～11:00 | 4. 安定同位体比分析で水産資源の栄養起源を探る            | 富永 修(福井県大生物資源)                 |
| 11:00～11:30 | 5. 微量元素の安定同位体技術を用いた沿岸域の物質動態研究       | 中野孝教(地球研)<br>座長 富永 修(福井県大生物資源) |
| 11:30～11:50 | 総合討論                                |                                |
| 11:50～12:00 | 閉会の挨拶                               | 林崎健一(北里大海洋)                    |

### 企画の趣旨

沿岸域の生物生産は、海域および地表水や地下水を介して陸域からもたらされる各種物質によって駆動される。それらに含まれている微量元素の主な起源は流域の地質や人間活動にあり、その組成や同位体比には地域生態系の特徴が色濃く現れる。本ミニシンポジウムでは、地

質学で広く利用されてきた微量元素・同位体分析を中心に、沿岸域の物質動態研究の現状と可能性を紹介し、微量元素の地域的特徴を環境指標とした、水圏生態系研究の今後の展開について議論する。